

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2792200228		
法人名	有限会社 さざなみ		
事業所名	グループホームさざなみ大池橋		
所在地	大阪市生野区中川西2-26-5		
自己評価作成日	平成30年5月17日	評価結果市町村受理日	平成30年7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年5月29日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢社会といわれる現在、認知症の高齢者の担い手として日々の暮らしの中で、お一人おひとりと向き合う事の大切さ、その人らしい暮らしが出来るように支えていくという志のもと、日々の業務に取り組んできました。認知症を抱えていても、その方の可能性と役割を果たす喜びや、地域との関わりを大切にしたいと再確認し、利用者様主体の生活支援を進めていきたいと思っております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この4月に、法人内他事業所から社会福祉主事の資格を持ち、認知症介護の豊富な知識と経験が有り且つ温かく包容力の有る新しい管理者を迎えて、ホーム全体がより一層明るく活気の有る雰囲気がある。利用者が認知症であっても、残された力でその人らしく楽しく自由に喜びを感じられる利用者主体の暮らしに向けて管理者と職員が一丸となって支援している。調理の得意な厨房専門職員2人が交代で利用者の好みに添った温かく美味しい食事を提供し、職員は利用者のケアに集中できる体制が出来ている。利用者は部屋に籠らず、リビングで皆と談笑しながら好きな事・出来る事を行なって役割を果たす喜びを味わいながら生き活きと暮らしている様子が見られる。特にケアマネジャーと2人のフロアリーダーの真摯な対応が利用者・家族の安心と信頼に繋がっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	残された力で暮らす喜びを感じ、楽しく、のんびりと暮らしが出来るよう管理者と職員が日々のなかで共有している。	事業所理念「1.楽しく自由にありのままに 2.残された力で暮らす喜び 3.家庭的な愛に溢れた暮らし 4.地域との交流と連携を図る」を玄関に掲示し毎朝の全体朝礼で唱和して理念を共有すると共にその実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会での行事など、お声をかけてもらい参加させて頂いています。また、行事などの準備などお手伝いさせて頂けるようにお声をかけています。	町会に入会し、直ぐ近くに住む町会長と民生委員がこまめに地域の行事案内をしてくれる。桜祭・夏祭り・秋のだんじり・小学校での運動会に参加して地域との交流を図っているが体調不良による相継ぐ管理者の交代と利用者の重度化で行事への参加が減っている。	地域密着型サービスの観点から地域の理解と協力は最重点課題である。地域行事への積極的参加と、オープンカフェや、以前できていた幼稚園児との交流も復活し、地域とのつきあいを深める事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて中川地区の町会長様や、地域包括支援センターの担当者様、民生委員の方に日々の生活の報告をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議ではこれまでの当地区での災害時の対応時や対応方法や、緊急避難場所等の話し合いを行い、活かしています。又、地域の行事に参加しています。	従来奇数月の第3金曜に開催していたが、地域包括支援センター職員の参加が得られないケースがあったので、町会長・民生委員の協力で今後地域包括職員の都合に合わせて開催日に変更した。家族・利用者・知見者の参加もすすめている。会議は運営状況を報告し、課題等について意見交換して運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当施設から区役所への書類提出の際には、当施設の担当者に不明点を確認する等を行い、協力関係を築くように配慮しています。	行政の窓口の生活支援課や介護保険課とは、常に連絡を取り報告・相談して助言と情報を得ている。グループホーム連絡協議会や安心サポートが毎月開催する会議や研修会にも参加し、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護職員に対し、身体拘束の勉強会開催など、日々の日常生活の管理を行っています。事故防止の観点から玄関の施錠をさせて頂いていますが、外出などのご希望があれば、すぐに対応させて頂いています。	身体拘束廃止委員会を設置し、研修・勉強会を年数回実施している。職員は身体拘束の弊害と該当する具体的な行為・言葉を理解して拘束しないケアに取り組んでいる。玄関とユニットドアは安全上施錠しているが、利用者の見守りを徹底し素振りで察知し外出同行して閉塞感を抱かぬように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設の各フロアには、リビングと廊下に対しての防犯カメラを設置し、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの担当者様とも相談をし、個々の利用者様が成年後見制度の必要性を話し合い行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には、契約書や重要事項説明書の内容をご入居者様やご家族様に説明し、不安や疑問点にお答えさせて頂き、ご理解して頂けるように配慮しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置 ご家族様が面会に来られた際や、お電話の際に、ご意見を伺っています。	利用者の意見・要望は、日々の関わりの中、特に入浴や散歩等の心身のリラックスした時に丁寧に聞きとっている。家族からは訪問時や電話で頻繁に連絡を取りホームでの暮らし振りを説明しながら意見要望を聞き出している。それらを職員会議で検討して運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やリーダー会議等で、意見や提案を聴く機会を設け、働きやすいより良い職場になるように配慮しています。	管理者は職員の自主・積極性を尊重している。毎月開催するリーダー会議、フロア会議、全体会議は、利用者のケアや業務に関する意見・提案を率直に出せる関係と雰囲気が出来ている。年2回の個人面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はご利用者様とともに生活している介護職員の意見を出来る限り職場に反映できるように、3か月に1度の個人面談等で聞かせて頂いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度、職員研修の機会を設け、職員同士が発表の機会を持つことができるように検討しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は同法人のグループホームにて、管理者同士が情報交換が出来る場をもっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当施設に入居される際には、ご家族や前ケアマネ・ソーシャルワーカーへのご本人様の希望を確認し、利用者様に合った安心の確保に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込書を準備し、ご家族様の不安や要望を記入して頂き、ケアプラン作成の際にの反映させています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の必要事項の判断として、初期段階にキーパーソンとなる方や、ご家族様や、ご本人を時間をとり、ご要望をお聞きして出来るだけ反映できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人と人との繋がりを大切にし、普段の生活のなかで暮らす者同士、支えながら生活をして頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設や地域のイベント等にはご家族様に声掛けを行い、利用者様と一緒に時間を過ごして頂けるように、努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣のスーパーや公園、商店街への外出の機会を持ち、これまでの馴染みの場所の継続を図っています。	数少ないが、友人や知人が訪ねてきたら温かく応対し何時までも関係が続くように支援している。行きつけの場所としては、近くの公園やコリアンタウン・ライブ等へ買い物と外食を兼ねて散歩に出かけ関係が途切れないようにしている。家族と一緒にお寺や自宅での法事に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が共に助け合い、支え、職員は理解し、利用者様が孤立しないように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族さまのご意向があれば、ご入居様のご希望、ご家族様のご要望に沿うように努めさせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設の利用者様同士の共同生活の範囲内になりますが、ご本人様やご家族様を通じて、暮らし方の希望や意向の把握に努めています。	入所時に本人・家族から聴き取った生活歴や趣味・特技等を記録したフェースシートを基に、その後のホームでの暮らし方の希望や意向の変化を日々の関わりの中で把握するように努め、その情報を「絆ノート」に書きとめ、介護計画に活かしている。特に入浴や散歩等の個別ケア時に本音が聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に前ケアマネやケースワーカー、地域包括のケアマネから、生活歴や既往歴の聞き取りをさせて頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の状態を把握し、総合的に見つけ、ご本人のできる力を暮らしのなかで発見できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人を知り、その人に合ったプラン作成をし、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、より良い環境で暮らして頂けるようつとめています。	本人・家族の要望と主治医・看護師の所見・アセスメントシートや介護記録・モニタリングの結果等を基に、ケアマネジャーを中心にサービス担当者会議を開いて本人の現状に即した介護計画を作成している。状態の変化が有れば即見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様ごとのバインダーを制作し、日々の様子やケアの記録をし、介護計画作成の際に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族の要望であれば、その都度、職員同士で検討し、実現の可否を話し合うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に住まれている方が、当施設に入居されている方が多く、これまで馴染のある美幸森公園・美幸森神社・商店街・近隣のお店の店員など、繋がり大切にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、24時間のオンコール体制の契約を結び、利用者様との信頼に繋がるような体制を築いています。	本人・家族の希望を尊重して、従来のかかりつけ医の医療を必要とする利用者には継続受診の支援はしている。24時間オンコールの協力医療機関からは週1回、内科の往診があり、看護師による健康診断は週2回ある。歯科、眼科、皮膚科は必要な方だけの往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は訪問看護ステーション24時間、看護が受けられる契約をしており、看護師から医師への連携体制にも配慮しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用様が入院した際には、管理者やケアマネが病院までお見舞いに伺い、病院から情報提供を頂き、退院後の対応に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には必ず、主治医と看護師とご利用者様やご家族様と話し合い、現在の状況から今後の方針を決めています。その際には、ご家族様の心理的負担も考慮させて頂いています。	契約書に「医学的知見に基づき医師が回復の見込みがないと診断した場合及び認知症の進行により寝たっきりとなり「老衰」の状況になった場合は、事業所の看取りの準備が整い、本人、家族の同意が得られることを条件に事業所内での看取りの提供を検討する」として家族とよく話し合い、方針を共有して支援している。これまでに10名余の看取り事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、職員から管理者・看護師へ連絡が取れる体制をとっています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の訓練の際は生野消防の消防隊員に來設して頂き、直接指導を頂いています。	年2回、消防署の指導と自主訓練にて、昼夜想定での消火、避難、通報訓練の訓練を行っている。建物は耐火建築物でスプリンクラー、火災報知設備、自動火災通報装置などの防災設備は整備されているが、備蓄の準備と地域住民との協力体制が今後の課題である。	災害はいつ来るかわからないので、日頃から避難訓練と研修を重ねて、発生時に利用者の身を守ることが重要責務と認識して落下物、倒壊物の防止対策や近隣住民と一緒に訓練を行うなど、防災対策の充実強化に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の立場に立って、受入れ・認め・癒す気持ちで優しく言葉かけをさせていただきます。	職員は接遇研修や勉強会を通じて意識の向上に努めている。日頃の介護の現場でも気になる対応には職員同士が注意し合っている。トイレ誘導ではあからさまにトイレ誘導の声掛けはせず、さり気ない言葉で誘導している。個人情報の漏洩防止にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が着る衣類は、ご本人に選んで頂いたり、希望される献立やおやつ等を、職員から聞き取りを行い、ご要望に応じています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お食事を摂られる際にも、ゆっくりと召し上がられつつ方や早く召し上がられる方の双方の生活習慣に対応出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族と相談しながら、個人の好みを尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、施設内で調理を行い、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供し、出来る限りは配膳や食器洗い等のお手伝いをいただいています。	2人の調理専門の職員が交代で食材の買い物から調理までを担当し、昼食、夕食に旬の食材を取り入れた温かい食事が提供されている。利用者は出来る範囲でテーブル拭きや食器洗いに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食べる量や水分摂取量を利用者様お一人おひとりの記録を残し、その記録を元に看護師へ報告し、反映するように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回、訪問歯科が来設されて、歯科衛生士による口腔ケアを行い、口腔内異常の早期発見、義歯の取扱いに注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様おひとりおひとりの排泄パターンや排泄リズムを把握するために、排泄チェック表への記録を残し、トイレ誘導をしています。又、お一人お一人の排泄リズムの把握に努め、自立に向けて誘導しています。	排泄チェック表で、利用者個々の排泄リズムを時系列に記録して、利用者の排泄リズムを把握している。本人のプライバシーを考えながら、トイレ誘導を促し、排泄の自立に向けた支援を行なっている。利用者の状態をみながら、館内での自主歩行に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に、排泄チェック欄がり、ご利用者様の排便の記録を残しています。看護師と排便日数を確認し、十分な水分補給を心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏や冬等の季節により入浴時間の変更を行い、その方の希望により入浴を楽しんで頂いています。当日の利用者の体調に合わせて、足湯・足浴等の対応もしています。	利用者は2方向介助の浴槽で週2回、午前中の中の入浴を楽しんでいる。毎日でも希望があれば柔軟に対応している。又、体調を見ながら足浴や足湯、清拭に変更をしている。湯はその都度、新しく取り替え個々の希望する湯温で会話が良く弾む。個々に沿った支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を決めず、個々の利用者様の睡眠時間・睡眠リズムへの配慮をしています。昼夜逆転の生活へも配慮し、夜間職員」も支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が生活するフロアに、お薬情報ファイルを設置し、各職員が薬の内容を把握できるようにつとめています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや調理の配膳等の役割を持って頂いたり、公園やスーパー・喫茶店等の外出の機会を設けることで、気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当施設の送迎にてライフに買い物ツアーを実地するなどの支援を行い、ご希望に沿うように対応しています。	天気の良い日には、利用者の体調を見ながら近くの川べりや公園へ散歩をしている。出来るだけ外気に触れるように、外出の機会を作るようにして、自治会主催のお茶会へ参加したり、近くの市場や薬局へ買い物に出かけるようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方については、多少のおこずかいをお渡しして、お金の所持の支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	皆が生活するリビングに電話を置いており、電話の使用が出来るようにしています。お一人では電話機の使用が困難な方には、職員が支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と利用者として、廊下やリビングの共有場所を掃除することにより、連帯感が築けるように配置しています。昼間はカーテンを開けて、施設内に光を取り入れることで、季節感や刺激を取り入れています。	共用空間は採光もよく居心地よく、ゆったりして清潔感がある。2台の洗面台が設置されて、キッチン是对面式で見守り、コミュニケーションが取りやすい。廊下は長く、館内での歩行練習の場としている。よく歩ける利用者はリハビリも兼ねて一番奥のトイレを使用するようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル席に関して、ある程度の座る場所を設けていますが、誰でも、どの席に座ることができるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当施設に入居される際には、これまでのご自宅で使用されていたタンスや家具類を持ち込み、出来る限り住み慣れた部屋を心がけています。	各居室には冷暖房、防災カーテン、ベッド、ナースコールが設置されている。自宅からは季節の寝具や小ケース、整理タンス、テレビ、洋服掛け、家族写真等が持ち込まれて、それぞれ自分の居室として寛げるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	近隣には「玉手」「たんだ」等のスーパーや喫茶店・公園がありますので、外出の機会を設けるように配慮し、季節を感じて生活ができるように努めています。		